

信頼回復に努めるブラジル当局

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

ブラジル中央銀行は26日、政策金利の引き上げ(10.5%→10.75%)を金融政策委員会で決定しました。利上げは昨年4月以降、8会合連続となりますが、今回の利上げ幅は過去6回の0.5ポイントから縮小され、0.25ポイントとなりました。

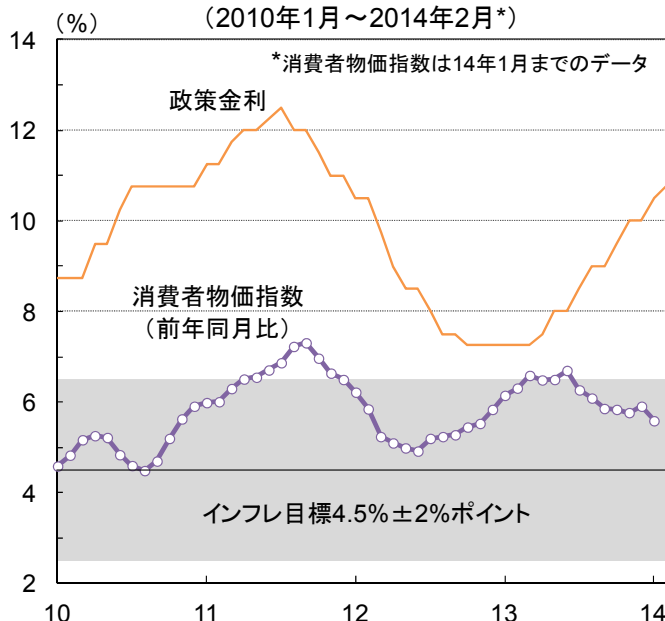
利上げ幅縮小の背景の一つに、政府が先週20日、2014年の歳出削減を発表し、インフレ抑制や財政規律を重視する姿勢を示したことが挙げられます。景気低迷と財政悪化を背景に、格付会社は昨年、同国の格付見通しを相次いで引き下げています。こうした中、今年10月に大統領選挙を控えた同国では、票を意識して財政拡大に傾き易いと考えられていますが、政府が今回、安易な景気刺激よりインフレ抑制を重視し、信頼回復に努めたことは、今回の利上げ幅の縮小に貢献しただけでなく、市場の安堵にもつながったとみられます。

経常赤字やインフレ率の高さ、足元の経済指標(27日には昨年10-12月期GDPが発表予定)なども含め、ブラジルの環境は芳しくありません。ただし、経常赤字は今年1月まで6ヵ月連続でGDP比3.6%台と、安定化の兆しを見せており、昨年のレアル安と世界景気の拡大見通しなども考えると、最悪期は過ぎた可能性があります。また、利上げの効果や政府のインフレ抑制重視の姿勢などが、物価上昇圧力を抑えると期待されます。

昨年、新興国通貨の中でも大きな下落となったレアルは、今年これまでのところ比較的堅調で、主要新興国通貨の多くが対米ドルで下落している中、僅かながらも上昇しています。短期間での環境の大幅改善を期待するのは難しいとみられるものの、当局が信頼回復に向けての取り組みを継続し、環境悪化に歯止めがかかる兆しが増えれば、高金利通貨であるレアルへの注目が再び高まるものと期待されます。

物価および政策金利の推移

(2010年1月～2014年2月*)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

ブラジル・レアルの推移

(2010年1月初～2014年2月26日)(レアル)



※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。